

2020年7月31日

高齢者施設向け<オンライン講習会>

新型コロナウイルス感染症 (covid-19) へ対応について

# 松戸市内の高齢者施設 現地視察からの事例報告

国際医療福祉大学

藤田 烈

*Retsu Fujita @ Graduate School of Medicine, International University of Health and Welfare*



# 現地視察の概要

- 日時

- 2020年5月22日 9時30分～17時30分

- 訪問者

- 和田耕治(国際医療福祉大学)、武藤剛(千葉大学)、菅野みゆき(慈恵医科大学 附属柏病院)、藤田烈(国際医療福祉大学)

- 同行者

- 松戸市福祉長寿部職員、松戸市健康福祉センター（松戸保健所）保健師

- 訪問施設（いずれもデイサービス、ショートステイを併設）

- 社会福祉法人 貴陽福社会 特別養護老人ホーム南花園
- 社会福祉法人 松栄会 特別養護老人ホームひまわりの丘
- 社会福祉法人 六高台福社会 特別養護老人ホーム松寿園
- 株式会社アース サービス付き高齢者向け住宅サボテン六高台



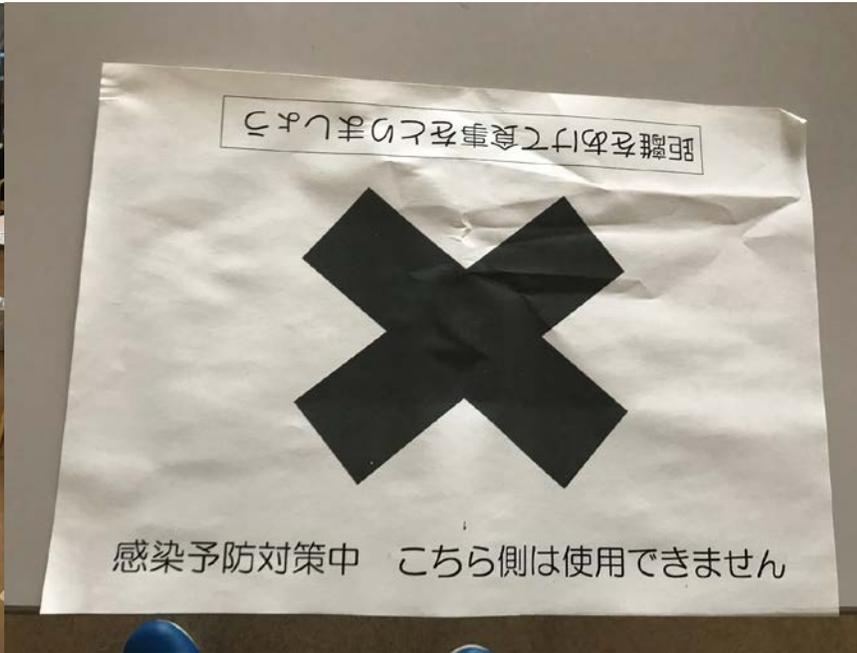
# 高齢者福祉施設の感染対策上の課題

1. 通所サービスの問題
2. 介護職員の不安への対応
3. 職場環境の整備
4. 入所者のレクリエーション
5. 施設利用者に感染者が発生した場合の対応
6. 職員に感染疑いが生じた場合の就業規制
7. 効果不明瞭な感染対策用具・薬剤の利用



# 1. 通所サービスの問題

- 入所者の3密対策についてはある程度管理できている
- 食事や共有スペースの時間差利用など



# 1. 通所サービスの問題

- 通所サービス（デイサービス等）はどうしても3密の状況になりがち、スペースの問題もあり対処が難しい
- デイサービス利用者の家族への対応が難しい、自宅では平熱だったとあってサービスに来るが来所後に発熱が確認される場合が多い
  - 熱があるからと送り帰しても、「家でもう一度測ったら熱はなかった」といって再度送ってくるケースも多発している

サービススペースの確保もしくは利用者の制限、時間差利用などを検討  
家族への教育や情報提供については行政や学会の公表資料を有効活用



## 2. 介護職員の不安への対応

- 介護職員の間で高齢者福祉施設は危険な職場だという意識が高まってきている
- 加害者意識と被害者意識が共存しながら不安感を募らせる介護職員が多い
- 介護職員が情報共有を行うSNS上で危機感を煽る情報が飛び交っている
- 施設利用者に感染者が発生した場合、家族などの反対により出勤拒否する介護職員が多数生じるかもしれない、入所者の生活維持に必要なサービスを保てなくなるかもしれない、と危惧している施設長が多い
- 施設が実施している感染対策の半分ぐらいは介護職員の不安軽減が主目的になっている



## 2. 介護職員の不安への対応

### • 職員への正しい教育と情報提供



#### 高齢者福祉施設従事者の方へ

- 相談窓口の設置  
新型コロナウイルス感染症対策についての相談窓口を設けます。  
以下のアドレスに「施設名・お名前」を明記の上、お問い合わせください。  
E-mail : [jsipc-toiawase-ML@umin.ac.jp](mailto:jsipc-toiawase-ML@umin.ac.jp)
- 新型コロナウイルス感染症の院内・施設内感染対策チェックリスト (2020年7月22日)
- 高齢者福祉施設従事者のためのQ&A (第2版) (2020年5月26日)
- 高齢者介護施設における感染対策 第1版 (2020年4月3日)  
追補 : 図1 図2 表1
- 高齢者福祉施設従事者のためのQ&A (2020年3月10日)
- 福祉・介護施設における新型コロナウイルス感染症の対策 (動画)

#### 一般市民の方へ

- 第一波を乗り越えて、いま私たちに求められる理解と行動 (2020年6月15日)
- 新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項 (2020年2月28日)
- 新型コロナウイルス感染症に対する注意事項 (2020年2月3日現在)

[http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content\\_id=328](http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=328)

Retsu Fujita @ Graduate School of Medicine, International University of Health and Welfare



### 3. 職場環境の整備

- 介護職員の更衣室や休憩場所は狭く入り組んだ場所であり3密になってしまふことが多く、代替スペースを用意することも難しい
- 入所者の居住空間は臭気対策の面から換気がしっかり行われている、介護職員の休憩室や作業場所は換気が難しい奥まった場所にある場合が多く厳しい
- 認知症や転倒の恐れのある施設利用者がいる場合、職員の休憩場所をそこから離れた場所に置くことはできないので、どうしても入り組んだバックヤード内に置かざるを得ない

大がかりな職場環境整備は今が最後のチャンスかもしれない  
感染者が発生してから何かを変更するのは大変難しい



# 4. 入所者のレクリエーション

- 高齢者施設のレクリエーションは、ふれあいや繋がりを目的とするものが多いので、利用者間の距離を取りながら実施することが難しい場合が多い
- ほとんどの施設がカラオケを設置しており、みな楽しみにしているが、感染の問題で使えなくなってストレスを感じている施設利用者が多い
- 緊急事態宣言以降、ボランティアの方々が誰も来なくなってしまい、これまで行ってきたレクリエーションの多くが続けられなくなってしまった



# 4. 入所者のレクリエーション



北海道新聞Webサイトより引用 2020年7月27日(月) 京都新聞Webサイトより引用 2020年7月27日(月)

3密や飛沫の拡散を避ける新しいレクリエーションの工夫を！



## 6. 職員に感染疑いが生じた場合の就業規制

- 就業規制のルールを作り、職員の健康状態に関する記録を作成している施設が多い
  - ただし、実際の管理レベルは様々なようです・・・
  - 毎日出勤後に体温測定や他の症状の有無を確認する施設もあるが、症状の報告を全て職員の自己申告に任せている施設もある

発熱等の症状把握を職員の自己申告に任せることは危険です  
長期間体調不良者が見つかっていない施設は特に注意が必要です  
職員が安心して報告・相談できる職場環境を整えてください

他地域ですが、COVID-19流行後に体調不良による欠勤が激減したという施設もあるようです・・・



# 7. 効果不明瞭な感染対策用具・薬剤の利用

- 塩素散布型の空間除菌グッズのような、有効性が不確かな薬剤を利用している施設が多い
  - 念のために利用するという形であれば良いが、これを利用していけば大丈夫と考えることは危険
- アルコール系消毒剤が品薄になった経緯もあり、次亜塩素酸水や酸性水などを手指や環境、器具等の消毒に利用している施設が多い
  - 次亜塩素酸は非常に不安定な物質で、日光が当たったり、温度の高い環境で保管すると、すぐに塩酸と酸素に分解して消毒効果が失われてしまう
  - 空間への噴霧は消毒効果の面からも安全性の面からも全く勧められない
    - 2020年3月6日付厚生労働省：社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について「**次亜塩素酸を含む消毒薬の噴霧については、吸引すると有害であり、効果が不確かであることから行わないこと**」



# 7. 効果不明瞭な感染対策用具・薬剤の利用

- 塩素散布型の空間除菌グッズのような、有効性が不確かな薬剤を利用している施設が多い

むやみに対策を追加・拡大すると、本当に必要なところに手が回らなくなるのでかえって危険です！

まずは、最も重要な下記の対策を徹底することを検討してください

1. 3密を避ける
2. 手指衛生と飛沫対策（マスク等）を徹底する
3. 症状のある施設利用者や職員を適切に速やかに把握できる体制を整える

